



RoomOS 26.5

Cisco Room シリーズユーザーガイド

Touch 10 または Room Navigator を使用するデバイス

このユーザーガイドの内容

はじめに

ベストプラクティス	4
基本的なナビゲーション	5
Room デバイスのアクセシビリティ	6
自分の資格情報を使用してサインインする	7

ビデオ通話

コール制御	9
音声設定	10
連絡先リストから発信する	11
発信する前に連絡先を編集する	12
名前、番号、またはアドレスを使用して発信する	13
着信コール	14
別のコール中にコールを受信する	15
通話から自身を切断する	16
コールを保留にし、保留中のコールを再開する	17
継続中のコールを転送する	18
着信拒否を有効にする	19
すべてのコールの自動転送	20
通話中にキーパッドを開く	21
継続中の通話に参加者を追加する	22
電話会議から参加者を切断する	23
参加者をミーティングに追加する	24
ミーティングでスピーカーを固定する	25
ミーティングで挙手する	26
最近の通話の通話詳細を検索する	27

シスコ プロキシミティ 設定

Cisco Proximity の超音波信号	29
------------------------------	----

コンテンツ共有

通話中にコンテンツを共有する	31
Webex アプリでコンテンツを共有する	32
Miracast® でコンテンツを共有する	33
Airplay®でコンテンツを共有	34
通話中に画面のレイアウトを変更する	35

スケジュールされたミーティング

スケジュールされたミーティングに参加する	37
Webex ミーティングに参加する	38
サードパーティのミーティングに参加する	39

連絡先

お気に入り、発着信履歴、ディレクトリ	41
通話中にお気に入りに追加する	42
非通話時に誰かをお気に入りに追加する	43
お気に入りを編集する	44

カメラ制御

通話中にカメラをオンまたはオフにする	46
通話中または通話中でないときにセルフ ビューにアクセスして調整する	47
セルフビューを移動する	48
自動カメラモードの選択	49
ミーティングゾーン	50
カメラを手動で制御する	51
カメラ位置プリセットを追加する	52
カメラ位置プリセットを編集する	53
遠端カメラを制御する	54

設定

デバイス設定および規制情報	56
---------------------	----

このガイドの章間を移動するには、サイドバーのボタンをクリックします。

このガイドでは、オンプレミスのサービスに登録された場合の Touch 10 または Room Navigator を備えた次の製品の使用について説明します。

- Room Bar
- Room Bar Pro
- Room Kit EQ
- Room Kit EQX
- コーデック Pro/G2 を使用した Room Kit Pro/G2
- Room 70 G2
- Room Panorama および Panorama 70
- Board Pro および Board Pro G2
- Desk Pro および Desk Pro G2

タッチコントローラを Desk Pro/G2 または Board Pro/G2 で使用している場合は、『Cisco Board および Desk シリーズのユーザーガイド』を参照し、デバイスの特性と機能について確認します。

注：このユーザガイドに記載されている機能の一部は、特定の市場ではオプションであり、お使いのデバイスには適用されない場合があります。



はじめに

はじめに

ベストプラクティス

効果的なビデオ会議では、出席者の距離がどれだけ離れていても、フェイスツーフェイスの会議を行えます。これはあくまで会議であることを忘れないでください。ここでも通常の礼儀作法と服装規定が適用されます。

会議室内

- すべての音声が認識されるように、マイクをテーブルの前面に配置してください。最も優れた位置は、デバイスの前面の少なくとも 2m (6.5') で、テーブルの少なくとも 0.3m (1') の前面にある平らな表面上です。
- ディレクティブマイクは、デバイスから離す必要があります。
- マイクは、常に見える場所に置いておくようにしておきます。
- マイクは、テーブルに置かれたコンピュータやプロジェクタのファンなど、ノイズ源から常に離れた場所に置いてください。これらのノイズ源からの雑音は、遠隔地の出席者には、予想以上に大きく聞こえます。
- ドキュメント カメラまたはホワイトボード カメラを使用する場合は、カメラが会議のリーダーの近くになるよう、または指定したコントロールの近くになるように参加者を整列させてください。

- ホワイトボードが使用されている場合、ホワイトボードがメインカメラを介して、または専用のホワイトボードカメラを介して見えるようになると、会議がリモート参加者により適切に認識されません。通常、放送会社はこうのようにして、プレゼンターが本当に同じ部屋にいることを視聴者に見せます。
- すべてのペリフェラルは、1 人の出席者が手を伸ばして、会議の最中にポイント、ディスプレイ変更、記録などの操作を行える場所に置いてください。
- 最も自然な会議環境を確保するために、可能であれば、受信モニタの上部中央にカメラを置いてください。遠くにいる会議の相手とアイ コントクトを行えるよう、カメラは、会議出席者に直接向ける必要があります。これを確認するには、ビデオデバイスのセルフビュー機能を使用します。セルフビューには、リモートパーティがデバイスから表示できるもの (発信ビデオ) が表示されます。
- コンテンツを共有する場合は、通常はデュオ ビデオを使用します。つまり、2 本の VideoStream を使用します。1 本はプレゼンテーション用、もう 1 本は発表者 (または発表者グループ) 用です。デバイスが小さいほど、プレゼンテーションを視聴するか、またはプレゼンタを選択するかを選択する必要があります。

その他のヒント

カメラのプリセットを使用する

Cisco デバイスを使用すると、定義済みのズームとカメラの方向(パンとチルト)を作成できます。必要であれば、これらを使用し、発表者にズームします。後からズーム アウトすることを忘れないでください。カメラトラッキング付きのデバイスの場合、これは必要ありません。

スピーカーのボリューム

音声システムは、モニタまたは Cisco Digital Natural Audio Module に内蔵されているスピーカーを使用します。

一部のデバイスでは、モニタリモートでモニタの音量を調整することによって、デフォルトのボリュームレベルを設定できます。

明るさのコントロール

モニタの明るさや色などの設定を調整するには、モニタのリモート コントロールを使用してください。会議室の条件に合わせて、モニタを調整してください。Cisco のモニタには、非常に簡単に使用できる、画面上のメニューがあります。モニタの設定方法の詳細については、ユーザ ガイドおよび管理マニュアルを参照してください。

はじめに

基本的なナビゲーション

接続されているデバイスの名前をタップして連絡先情報を表示します。

ボタンの下にドットが表示されている場合、オフスクリーンにさらにボタンがあることを示しています。右からスワイプすると、これらのボタンを表示できます。

ホーム画面の中央には、時刻と日付、そして「通話」や「Webex」といったおなじみのボタンが表示されます。



右端からスワイプしてコントロールパネルを開きます。

Room Navigatorの音量調節が画面に表示されます。

はじめに

Room デバイスのアクセシビリティ

スクリーンリーダー

スクリーン リーダーは、画面上の操作や変更について音声によるフィードバックを提供するため、視覚障害のあるユーザがコラボレーション デバイスを操作できるようになります。

スクリーン リーダーは、すべての Room シリーズ デバイスでデフォルトで使用できます。アクセシビリティ 設定メニューでオンにすることができます。

共有デバイスでは、デバイスがスタンバイ モードになるとスクリーン リーダーがオフになります。

個人モードのデバイスでスクリーン リーダーを永続的にオンにするには、ホーム画面の **[設定]** ボタンをタップします。**[デバイス設定] > [アクセシビリティ]** に移動します。スクリーンリーダーをオンに切り替えます。

スクリーン リーダーは、英語 (英国)、英語 (米国)、フランス語 (カナダ)、フランス語 (フランス)、ドイツ語、イタリア語、スペイン語 (ラテン アメリカ)、スペイン語 (スペイン) の言語で利用できます。スクリーン リーダーがオンになっている場合は、**[設定]** メニューの **[言語]** セクションで使用可能な言語からのみ選択できます。

UI 言語がスクリーン リーダーでサポートされていない場合は、デフォルトで英語に設定され、言語が利用できないという通知が表示されます。

管理者はスクリーン リーダーの動作を構成できます。Webex ヘルプ センターのこちらの記事で、スクリーン リーダーの動作設定と機能制限についてお読みください。

ジェスチャー

インタラクティブ スクリーンを備えたデバイスでは、次のジェスチャを使用できます。

- **3 本の指で下にドラッグします:** スクリーンリーダーのオン/オフを切り替えます。
- **画面上の任意の場所を 1 回タップします。** デバイスはタップした場所を読み上げます。これにより、タップした要素にフォーカスが移動します。
- **画面上の任意の場所をダブルタップします。** 要素にフォーカスがある場合、ダブルタップすることでその要素をアクティブにすることができます。テキストをダブルタップしても (これは難しくはありませんが)、何も起こりません。
- **左/右にスワイプ:** スワイプに応じて UI のフォーカスが左/右に移動します。
- **上下にスワイプ:** スライダーがハイライトされている場合は、スライダーを調整します。そうでない場合は、上/下にスワイプするジェスチャで見出し間をスワイプします。
- **ドラッグして放す:** 画面上で指をドラッグしてハイライトを移動させると、途中で通過するすべてのものがアナウンスされます。キーボードでこれを行うと、指を離れたキーが入力されます (キーボードの通話ボタンを除く)。
- **2 本の指でタップする:** 画面に表示される通知やポップアップは、ユーザーが操作しなくてもアナウンスされます。これらのアナウンスを停止するには、2 本の指でタップします。通知は、着信コール、参加者の会議からの退出または参加、デバイスの画面に表示される PIN ペアリング コードなどに使用されます。

はじめに

自分の資格情報を使用してサインインする

1



Extension Mobilityボタンをタップします。

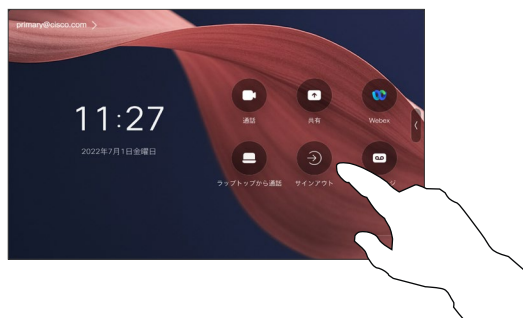
ボタンが表示できない場合は、ホーム画面のボタンを左にスワイプします。

2



ユーザ名と PIN コードを入力し、ログインをタップしてください。サインインが成功したことが表示されます。

3



ログアウトするには、[サインアウト]をタップします。ボタンが表示できない場合は、ホーム画面のボタンを左にスワイプします。

Extension Mobility について

会議室やクワイエットルームに配置され、CUCM (Cisco Unified Communications Manager) の元で稼働しているデバイスでは、自分の個人資格情報を使用してデバイスにログインすることができます。

CUCM は、すべての着信通話を特定のデバイスにルーティングします。

Extension Mobility からログアウトすると、[最近の履歴(Recents)] のリストはデバイスからクリアされます。



ビデオ通話

コール制御

電話をかけるには、ホーム画面の通話ボタンをタップします。ビデオアドレスを入力するか、[お気に入り]、[発着信履歴]、または [ディレクトリ] で通話相手を検索します。電話がつながるとすぐに、通話コントロールが Touch コントローラ画面に表示されます。

通話中に画面左上隅の下向き矢印をタップすると、ホーム画面を表示できます。ホーム画面から、通話しながら、コントロールパネルとデバイス設定にアクセスできます。

[通話コントロール(Call controls)] 画面には、ミュート/ミュート解除、ビデオの開始と停止、ミーティングからの退出を行うための見慣れたボタンが表示されます。

また、以下にアクセスすることもできます。

- 共有。共有オプションを開きます。
- マイクオプション。コントロールパネルでも利用できます。
- もっと見る。着信コールオプションの一覧を開きます。
- レイアウト。レイアウトメニューが開きます。そこで、会議のスタイルに合ったレイアウトを選択できます。
- セルフビュー。カメラ制御を開いて、セルフビューを調整および移動するためのオプションが表示されます。
- カメラ。カメラを手動で調整してビューを保存するためのオプションを含め、カメラモードを選択します。
- 参加者。現在の通話で参加者のリストを開きます。参加者をタップすると、使用可能なオプション ([お気に入り] など) のオプションが表示されます。

画面を拡張する

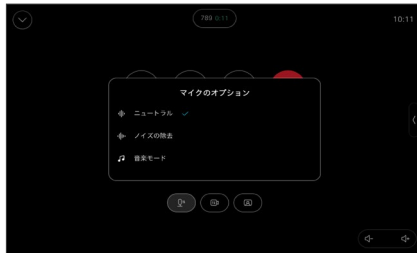
Room シリーズをラップトップ画面の拡張として活用するには、ラップトップを HDMI または USB-C ケーブルで接続します。数秒後、デバイスの画面にラップトップ画面が表示されます。

通話中に接続されているラップトップ画面をプレビューするには、[共有] をタップします。ソースを選択して [表示] をタップします。これでラップトップ画面を表示できるようになりましたが、他の通話参加者には表示されなくなりました。再び閉じるには「非表示」をタップしてください。



音声設定

通話中かどうかを問わず、マイクのオプションから次の音声設定が使用できます。これらの設定のいずれかをオンにするには、デバイスのコントロールパネルを開き、[マイク (Microphone)] をタップします。オンにするオプションをタップします。どれも不要であれば、中立 をタップしてください。



ノイズ除去

ノイズ除去を使用して、通話中に煩雑なノイズを排除することができます。特に、共有スペースまたはホームオフィスでは、ノイズ除去が便利です。タッチコントローラのホーム画面の右上にある [マイク] アイコンをタップします。次に、[ノイズ除去 (Noise Removal)] をタップしてオンにします。オフに切り換える場合は、[中立 (Neutral)] をタップします。

マイクロフォンのテスト

音声を録音および再生することでデバイスが正しく音声をピックアップしていることを確認し、ノイズ除去設定の有効性をテストします。

音楽モード

ミュージックモードを使用すると、通話中に、音楽のダイナミックレンジを流すことができます。これにより、音楽のニュアンスを聞くのが重要な設定で、より良いエクスペリエンスが作成されます。

音楽モードは、リモートミュージックのレッスンや楽器のテスト、およびすべての範囲の音楽を聞くことが重要な場合に便利です。デバイスは依然として、エコーキャンセレーションと環境背景雑音のリダクション機能を使用して、パフォーマンスを損なうことなく外部装置を使用する必要を回避しています。

ミュージックモードを使用していない場合は、デバイスによって雑音がフィルタリングされ、音声のレベルの違いが減少します。これにより、ミーティングの設定に対応し、気を散らすノイズを減らすことができます。デバイスを使用して録音された音楽を再生する場合にも、追加のフィルタリングが適切に機能します。

音楽モードを使用するには、まずデバイスで音楽モードを有効にします。コントロールパネルを開き、[デバイスの設定] をタップします。スクロールし、[音楽モード (Music mode)] を選択します。オンまたはオフに切り替えます。

注：音楽モードとノイズ除去を同時に使用することはできません。

着信音と音量

着信音を変更し、着信音の音量を調整するには、ホーム画面でデバイス名をタップし、[設定] を選択します。[着信音と音量 (Ringtone and volume)] に移動します。リストから着信音を選択し、スライダーを使用して音のレベルを設定します。

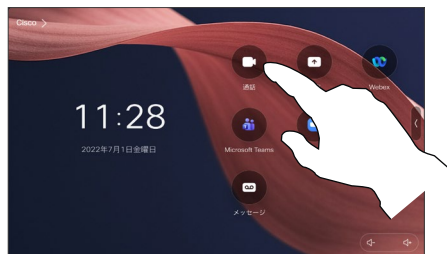
Touch 10 で音量を調整するには、ハードボタンを使用します。マイクはミュートボタンでミュートできます。

Room Navigator では、ソフトボタンを使用して音のレベルをコントロールします。

ビデオ通話

連絡先リストから発信する

1



通話ボタンをタップします。

2



[最近の履歴 (Recents)]、[お気に入り (Favorites)]、または [連絡先 (Contacts)] をタップし、スクロールしてエントリを探します。または、検索 フィールドをタップして、すべてのリストを一度に検索します。

3



名前、番号、URL の入力を開始します。

入力したとおりに一致するものが表示されます。

4



通話する相手をタップし、緑色の [発信 (Call)] ボタンをタップします。

連絡先リストについて

連絡先リストは、次の 3 つの部分から構成されています。

お気に入り これらの連絡先はユーザーによって追加されました。通常、これらのエントリは、頻繁にコールするか、または迅速にアクセスする必要がある場合に使用します。お気に入りは金色のアスタリスクで表示されます。

ディレクトリ は通常、ビデオサポートチームによってデバイスにインストールされた社内ディレクトリです。

発着信履歴 は、発信、受信、不在着信のリストです。

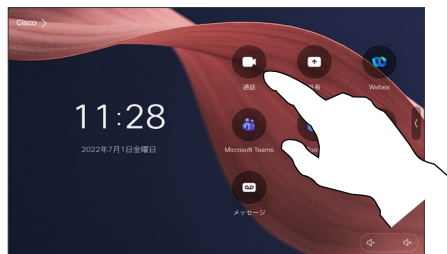
次のオプションが適用されます。

- 名前、番号、または URL を入力すると、デバイスはすべてのリストで検索します。
- お気に入りリストにエントリを追加することができます。発信する前にエントリの内容を編集したり、コールレートを変更したり、発着信履歴からエントリを削除することができます。

ビデオ通話

発信する前に連絡先を編集する

1



通話ボタンをタップします。

2



検索フィールドをタップするか、いずれかのリストをスクロールしてください。 連絡先をタップして連絡先カードを開き、[その他... (More (...))] をタップします。

3



[編集とダイヤル (Edit and dial)] をタップします。

4



必要に応じて編集し、緑色の [発信 (Call)] ボタンをタップして発信します。

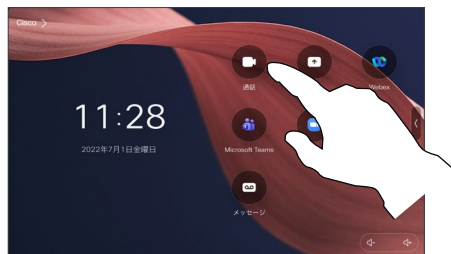
エントリ編集について

発信する前に、連絡先リストのいずれかのエントリを編集できます。プレフィックス、サフィックスの追加、またはエントリの変更が必要な可能性があります。

ビデオ通話

名前、番号、またはアドレスを使用して発信する

1



通話ボタンをタップします。

2



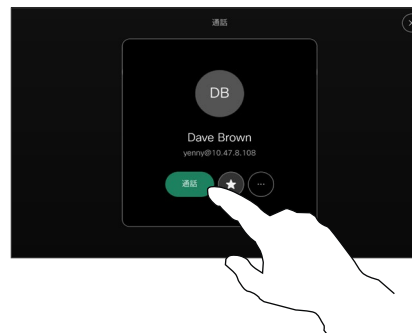
検索フィールドをタップします。

3



名前、番号、またはアドレスの入力を開始します。入力することにより、一致する候補が表示されます。正しいエントリが一覧に表示された場合はそれをタップします。それ以外の場合は入力を続けます。

4



連絡先が見つかったら、名前をタップし、緑色の [発信 (Call)] ボタンをタップします。

発信について

連絡先リストに登録されていないユーザでも、タッチパッド仮想キーボードを使用して名前、住所、または番号をキー入力することで、そのユーザを呼び出すことができます。

以前にコールしてきた人やコールした人は、[発信履歴] リストに表示され、任意のコールを[お気に入り] リストに転送できます。これについては、「連絡先」セクションで説明しています。

場合によっては、内線にアクセス、または暗証番号を提供するために、コール中に番号を入力する必要がある場合があります。

キーパッドを呼び出すには、[トーン信号 (Touch Tones)] (このボタンは、発信するとすぐに表示されます) をタップします。

発信履歴のクリアは、Web インターフェイスでのみ行うことができます。

ビデオ通話 着信コール

1



着信に応答することも、拒否することもできます。

2



デバイスで複数の着信コールを受信できる場合は、すべてを追加するか、すべて拒否するかを選択できます。

着信があった場合

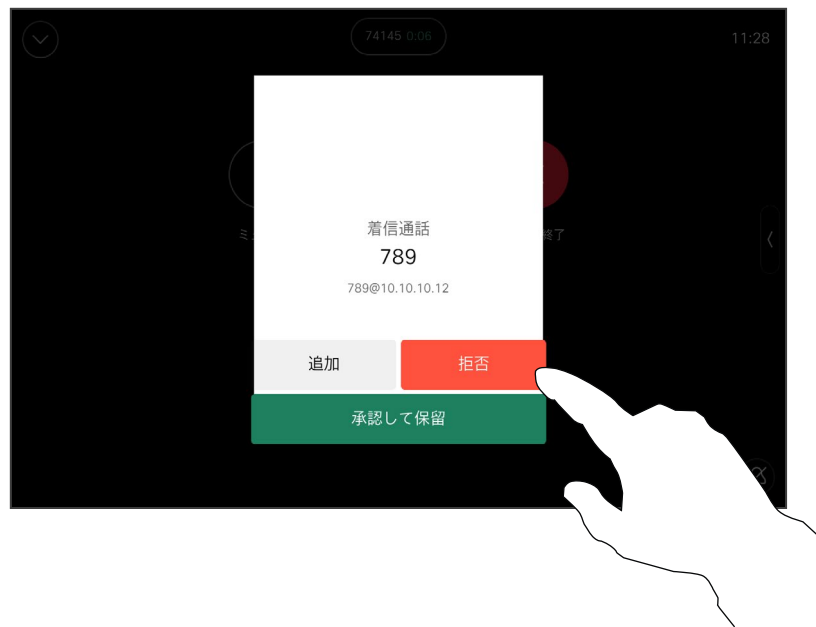
- ユーザからコールがあれば、そのコールを受け入れる、拒否する、あるいは無視するかのいずれかになります。
- 通話を拒否すると、通話中の情報が発信者に送信されます。
- コールを無視すると、発信者はこのことを、不在として認識します (コールに応答しなかった場合)。
- ビデオインフラストラクチャを使用すると、複数の着信を受信できます。

ビデオ通話

別のコール中にコールを受信する

着信があった場合

すでに通話中の場合は、これがデバイスで有効になっていれば、別の着信通話を受けることができます。



ビデオ通話

通話から自身を切断する



通話を切断するには、通話コントロールを開いて、
[通話を終了する] をタップします。

通話の切断について

通話中に **通話の終了** をタップすると、通話が切断されます。2 人の参加者だけがコールした場合は、このコールは終了します。

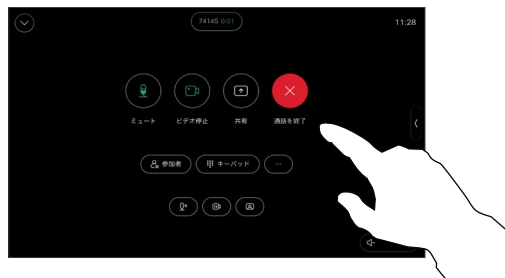
複数の参加者がいる会議コールでは、**通話の終了** をタップすると、ユーザが通常の参加者である場合にのみ、参加が終了します。

ただし、自分がそういった会議のホストである場合、**通話の終了** をタップすると、会議のタイプによっては会議が終了します。

ビデオ通話

コールを保留にし、保留中のコールを再開する

1



通話中に通話コントロールを開き、
[詳細] ボタンをタップします。次に
ホールドをタップします。

2



[再開 (Resume)] をタップして通話
に戻ります。

保留について

ユーザを保留中にすることは通常、ユーザを他のユーザに転送する際に最初のステップとして使用できますが、ユーザを調べる必要がある場合や、ビデオ転送の停止も含むミュートの代わりに使用することもできます。

ビデオ通話

継続中のコールを転送する

1



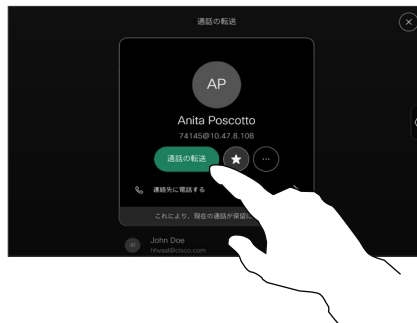
通話中に通話コントロールを開き、
[詳細] ボタンをタップします。[転送
(Transfer)] をタップします。現在の
通話が保留になります。

2



連絡先を検索して選択します。

3



緑色の [通話を転送する (Transfer
call)] ボタンをタップします。相手
と話して転送が行われたことを確認し
ます。転送先では保留中のまになり
ます。

4



[転送を完了 (Complete transfer)]
をタップします。

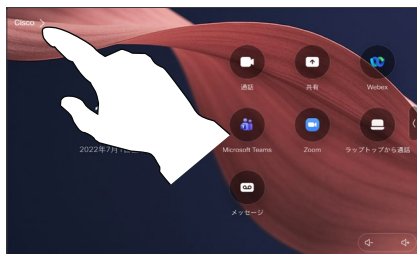
転送について

継続中のコールを別の人に転送することができます。転送は常に提案されており、コールを転送する担当者に連絡して、コールを実際に転送することができます。

ビデオ通話

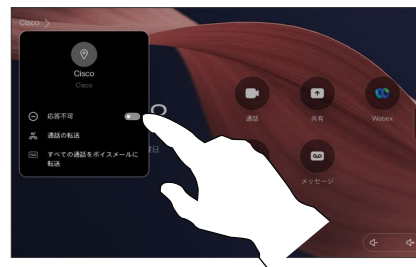
着信拒否を有効にする

1



タッチコントローラのホーム画面の左上隅にあるデバイス名をタップして、設定に移動します。

2



サイレント（DND）に切り替えます。非アクティブにするには、オフにします。

着信拒否について

着信コールに 응답しないようにデバイスを設定することができます。ただし、こちらからは必要時にいつでも発信することができます。

ビデオサポートチームがこの機能のタイムアウトを設定していて、その後デバイスが着信コールに 응답して通常どおり 응답するようになっている可能性があります。デフォルトのタイムアウト設定は 60 分です。

ビデオ サポート チームによって、表示されるメニューやオプションへのアクセスが無効になっている場合があることにご注意ください。

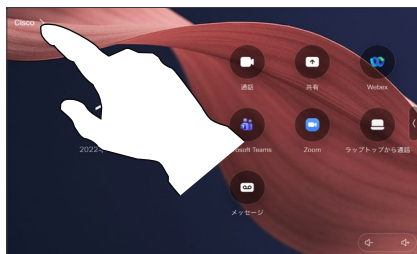
Room Kit Mini を USB カメラとして使用する。 USB カメラとして Room Kit Mini を使用し、PC とサードパーティのビデオクライアントを USB カメラとして使用することができます。重複コールによる競合を避けるため、デバイスは自動的に [応答不可] モードになっています。この状況では、[応答不可] モードをオフにすることはできません。

未登録のデバイスとしての Room Kit Mini の使用を選択した場合、コールのオーバーラップが発生しないため、上記の設定は適用されません。

ビデオ通話

すべてのコールの自動転送

1



タッチコントローラのホーム画面の左上隅にあるデバイス名をタップして、設定に移動します。

2



[転送コール... (Forward calls...)] をタップします 連絡先を選択し、[転送 (Forward)] をタップします。転送コールを停止するには、同じメニューを開いて [転送の停止] を選択します。

通話の転送について

ビデオサポートチームがすべての着信コールを転送するためのオプションを有効にしている可能性があります。ボイスメールと受信者のいずれかを選択できます。

[すべてのコールの転送先] をタップすると、いつもの [発信] メニューが表示され、受信者を指定できます

ビデオ サポート チームによって、表示されるメニューやオプションへのアクセスが無効になっている場合があります。ご注意ください。

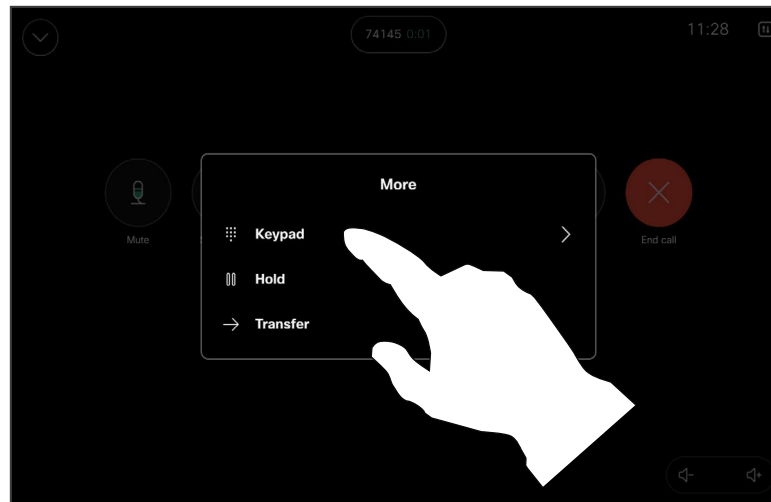
ビデオ通話

通話中にキーパッドを開く

通話中にキーパッドを使用する

通話中に、内線番号へアクセスしたり、(PIN コードの使用などにより)その他の場所へアクセスしたりするために番号の入力を求めるメッセージが表示されることがあります。

番号を入力するには、タッチコントローラのキーパッドを開きます。



通話中に通話コントロールを開き、[詳細 (More)] ボタンをタップします。次に キーパッドをタップします。

ビデオ通話

継続中の通話に参加者を追加する

1



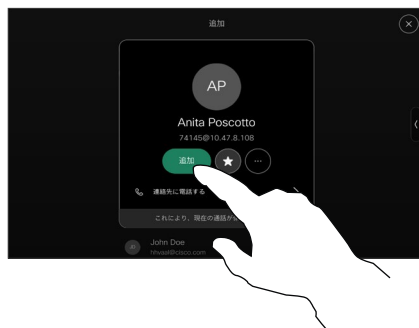
通話中に通話コントロールを開き、
[追加] をタップします。

2



次に呼び出す相手を探します。

3



連絡先カードの [追加] をタップ
します。

4



通話制御で [マージ] をタップして、
新しい通話を既存の通話に追加します。
電話会議が確立しました。

この手順は、ビデオインフラストラク
チャで可能な人数まで繰り返すことが
できます。

ビデオ会議について

ネットワークには、複数の参加者とビ
デオ会議を開始する機能が装備され
ている場合があります。

ビデオデバイスでサポートされる参
加者の最大数は、デバイスの設定とビ
デオのインフラストラクチャによって
異なります。これを確認するには、ビ
デオ サポート チームへ問い合わせ
てください。

ビデオ会議を開始する場合は、参加
者に一人ずつコールする必要があります。

ビデオ通話

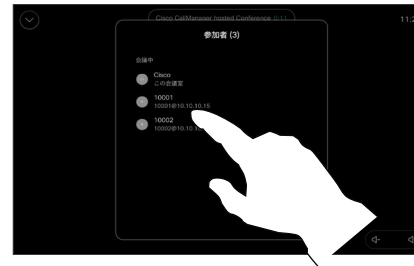
電話会議から参加者を切断する

1



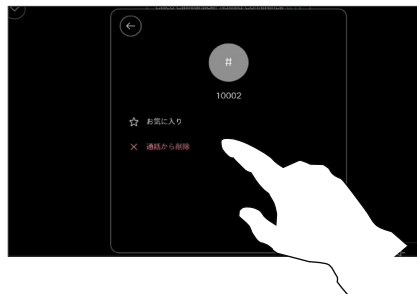
通話中に、通話コントロールを開き、
[参加者] ボタンをタップします。

2



電話会議からドロップする参加者をタ
ップします

3



コールから削除をタップします。

ビデオ会議について

デバイスからビデオ会議を実施できるかどうかは、お使いのデバイスで
使用できる場合とできない場合があります。

会議から参加者を切断できるのは会
議のホストのみです。

ビデオ通話

参加者をミーティングに追加する

1



ロビーで待機している人がいると、通話中に通知されます。通話コントロールを開き、[参加者] ボタンをタップします。

2



[許可 (Admit)] をタップして待機中の参加者をミーティングに参加させます。

参加者の許可について

ロックされている CMS ミーティングでは、参加者を参加者一覧からミーティングに参加させることができます。

ビデオ通話

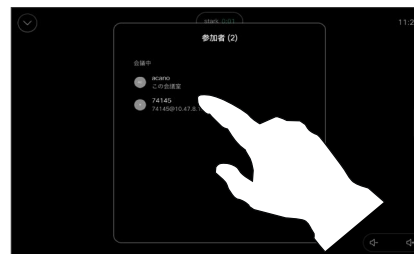
ミーティングでスピーカーを固定する

1



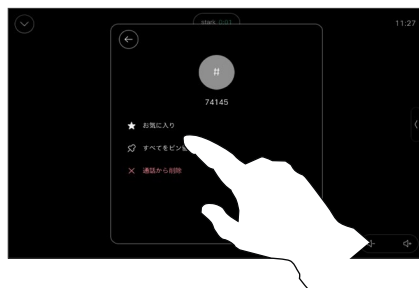
通話中に、通話コントロールを開き、
参加者 ボタンをタップします。

2



固定する参加者をタップします。

3



すべてをピン留めするをタップします。

スピーカーの固定について

CMS ミーティングでは、ミーティングの参加者全員にとって重要であるとしてミーティングの参加者を固定することができます。このようにすると、参加者または会議室にアクティブなスピーカーでなくても、全画面に表示されます。

スピーカーを固定すると、そのスピーカーが固定されていることを示す通知が画面に表示されます。同様に、固定を解除すると、それらの固定が解除されたというメッセージが表示されます。

音声のみの参加者を固定する場合、この設定はレイアウトには反映されません。

デフォルトでは、ホストのみがすべてを固定できますが、ミーティングの開催者は会議の設定でこれを変更することができます。

スピーカーは、CMS ミーティングでのみミーティング全体に対して固定できます。

ビデオ通話

ミーティングで挙手する

1



ミーティングで、通話コントロールを開き **[挙手]** ボタンをタップします。

2



手を下げる場合は **[手を下げる]** ボタンをタップします。この場合、名前の横にある参加者リストからアイコンも削除されます。

挙手について

会話を中断せずに質問やコメントを他の人に知らせるには、**[挙手]** ボタンを使用します。

ミーティングのホストと他のユーザの両方に、誰かが挙手したという通知が画面に表示されます。フルネームを含む通知が最初の挙手について表示されます。

その後、挙手アイコンに、手を挙げ上げた回数が表示されます。

参加者リストを開き、どの参加者が手を挙げたのか確認します。手を挙げた参加者は順番にリストの一番上に表示されるので、誰が最初に手を挙げたのか簡単に確認できます。

挙手は 2 名以上の参加者がいる CMS ミーティングで利用できます。

ビデオ通話

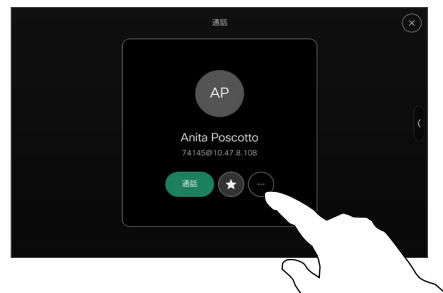
最近の通話の通話詳細を検索する

1



[発信 (Call)] をタップし、次に [最近の履歴 (Recents)] リストのエントリを選択します。

2



[詳細 (More)] をタップします。

3



次の画面で、通話の詳細をタップします。

4



リストを下方方向にスクロールして詳細を確認します。[戻る] 矢印をタップして、詳細画面から離れます。

通話詳細について

最近の通話のトラブルシューティングを行う必要がある場合は、[最近の通話] リストから通話の詳細を見つけることができます。



シスコ プロキシミティ設定

Cisco Proximity の超音波信号

Cisco ビデオデバイスは、近接機能の一部として超音波を発しています。業務用または商用アプリケーション、家電製品など、ほとんどの人は毎日さまざまな環境で、程度の差はあれ超音波にさらされています。

人によっては空中の超音波によって何らかの影響を自覚する場合がありますが、75 dB 未満の音圧レベルで影響が生じることはほとんどありません。超音波の制限に関するガイドラインは国によって大きく異なります。Cisco 近接通信信号が出力される 20 kHz あたりの周波数帯で検出される 75 dB の音圧レベルは、現在の制限における最小値となっています。

この情報の参考資料として、カナダ保健省のガイドライン http://www.hc-sc.gc.ca/ewh-semt/pubs/radiation/safety-code_24-securite/index-eng.php#a2.2.2 (英語) をご覧ください。

120 dB 未満の音圧レベルでは永続的または一時的な難聴はどちらも発生していないと、このガイドラインでは述べられています。

グループ使用の一体型スピーカー付き Cisco ビデオデバイスの場合、超音波の音圧レベルは 75 dB 未満でスピーカーから 50 cm 以上の距離にあります。

ほとんどの現実的なケースでは、ユーザの耳の位置でのレベルは、スピーカーの指向性、距離減衰、一般的な会議室での高い高周波数吸収率によって、これらの最大レベルよりはるかに低くなります。このレベルは、可聴音についてミーティングスペースの一般的なバックグラウンド/環境ノイズ レベルから通常のスピーチのいわゆる会話レベルまでさまざまです。

したがって、人間が近接通信の信号に連続的にさらされても安全であると考えられます。ほとんどの人は、信号の存在に気付かず、信号の影響を受けません。ただし、特に急性の高周波聴力を持つ一部の個人は、この信号が聞こえます。この状況はほとんどの場合、スピーカーの正面かつ近傍で起こります。

犬のような動物は、可聴周波数範囲が広いと、近接通信の信号が聞こえます。

ただし、音の影響はレベルに依存し、犬の可聴レベルの範囲は人と大きくは異なりません。20 kHz での犬の可聴しきい値は 0-10 dB と低く、最も感度の高い周波数範囲での人の耳のしきい値と変わりません。

シスコは、信号が犬に影響を及ぼす可能性についてテストや検証を行っていません。音量が限定的であるため、信号ははっきりと聞こえるものの、犬にとっては迷惑にならないと考えられている。

オフィスまたは会議室にいる犬は、通常のバックグラウンドノイズと同等のレベルまたはほとんどの会話レベルの超音波を受けることになります。当社の製品にこの機能を搭載したここ数年間で、信号によって動物が影響を受けたというレポートはありません。

ただし、超音波を使用する犬撃退デバイスが存在していることから、超音波が犬に及ぼす影響について疑問を持つことは当然のことです。これらのデバイスは通常、不快ではあるが無害な超音波を使用していると主張しています。Cisco は犬よけ装置の設計については知りませんが、そのようなデバイスの仕様を調べると、通常、露出レベルは 100 dB 以上であることがわかります。

Cisco のビデオコーデックとサードパーティ製のスピーカーデバイスを使用したソリューションでは、Cisco は超音波の音圧レベルを制御できません。ほとんどの場合、必要なスピーカー感度および周波数応答によって、音圧レベルは 75 dB の制限未満になります。しかし、過剰な信号の外部増幅を行う、またはスピーカーシステムが高周波を強調するものであった場合、この制限を超えた音圧が出力される可能性があります。

Cisco Proximity について

Cisco Proximity 機能を使用すると、コンピュータからワイヤレスで Cisco デバイスのコンテンツを共有できます。また、自分のスマートフォン、タブレット、PC、または MAC を使用して、ビデオデバイスのコールを制御することもできます。

次の条件に従ってください。

Cisco は、Cisco Proximity アプリケーションの開発を中止しました。この無料ツールは、ソフトウェアの更新やサポートを受けられなくなります。安全なワイヤレス共有のために、Webex アプリ、Miracast®、または Apple AirPlay への移行をお勧めします。

Proximity では、超音波を使用してユーザーを接続します(詳細は左を参照)。コンピュータ、電話、タブレットのマイクをふさがないようにしてください。

ドアを閉め切った場合は、Proximity は会議室の外では機能しません。Proximity を使用するには、ビデオエンドポイントの近くにデバイスを接続する必要があります。

プライバシーを確保する必要がある場合は、会議室のドアを閉め、盗聴されないようにしてください。

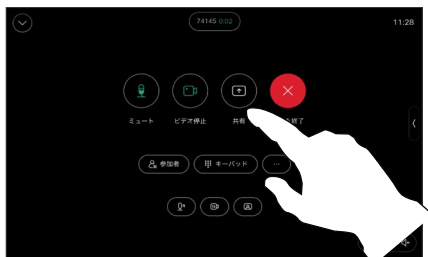


コンテンツ共有

コンテンツ共有

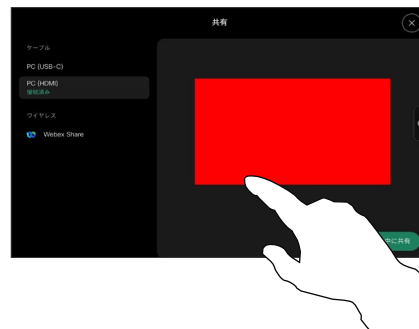
通話中にコンテンツを共有する

1



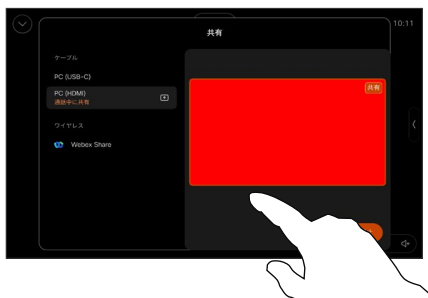
ケーブルを使用する場合は、ソースを接続し、スイッチがオンになっていることを確認します。通話コントロールを開いてから、[共有 (Share)] ボタンをタップします。

2



ソースを選択します。プレビューを表示するには、表示 をタップしてください。まだ誰もあなたのコンピューター画面を見ることができません。準備ができたなら 共有 をタップしてください。または、通話中に 共有 をタップして、すぐに共有します。

3



コンテンツの共有を停止するには、[共有の停止 (Stop sharing)] をタップします。

コンテンツ共有について

USB-C または HDMI ケーブルで Cisco デバイスに PC を接続することで、Cisco デバイス上でコンテンツを共有します。または、Webex アプリ、Cisco Proximity、Miracast®、または AirPlay を使ってワイヤレスで共有することもできます。

ケーブルを使用して通話外で共有するには、送信元を接続して、スイッチをオンに設定し、[画面共有 (Share Screen)] をタップします。デバイスにコンピュータ画面が表示されます。[共有の停止 (Stop Sharing)] をタップしてセッションを終了するか、または送信元との接続を切断します。

Miracast® が有効な場合、クライアントを使用せずにコンテンツをラップトップから Cisco デバイスにワイヤレスで共有できます。通話中のときでも通話中でないときでもこの機能は動作します。通話を共有するには、まずコールを開始します。

AirPlay が有効になっている場合は、iPhone、iPad、または Mac をワイヤレスに接続して、音声またはビデオコンテンツを共有、コラボレーション、再生できます。

ヒント！ 複数の画面を搭載したデバイスでは、画面の数だけ、独立したプレゼンテーションが表示されます。これは非通話時のみ可能です。最初に接続するプレゼンテーションをワイヤレス接続し、次にケーブル接続を使用することを推奨します。これを別の方法で行うと、最初の接続が切断される可能性があります。

注：お使いのデバイスは、ビデオ入力コネクタのいずれかが HDCP で保護されたコンテンツを共有するように設定されている場合があります。そのため、Google Chromecast、Apple TV、HD TV デコーダなどを介してビデオを視聴できます。この機能は通話以外でのみ利用可能です。通話中にこの特定のビデオコネクタからコンテンツを共有しようとする、HDCP 形態を維持するために、コンテンツ共有に割り当てられた画面の一部が黒色で表示されます。これは、この入力コネクタからの通話で共有しようとするすべてのコンテンツに適用されます (HDCP で保護されているかどうかに関わらず)。

コンテンツ共有

Webex アプリでコンテンツを共有する

Windows および Mac ラップトップの場合

1. Webex アプリでデバイス名をクリックし、[デバイスで共有 (Share on device)] をクリックします。
2. 共有する画面またはアプリを選択します。
3. 画面の上部に共有している内容のプレビューを表示するため、画面上部のコントロールバーに移動し、下矢印をクリックします。
4. 設定が完了したら、[共有の停止 (Stop Sharing)] をクリックします。

Webex アプリについて

超音波を有効にした後、同じ会議室に入るとすぐにデバイスに自動的に接続できます。これらのデバイスを使用すると、同じ会議室内のユーザーとコンテンツをワイヤレスで共有できます。

モバイル上の Webex アプリとコンテンツを共有する場合は、クラウドのペアリングが必要であることを注意してください。詳細については、Webex ヘルプセンターの [この記事](#) をお読みください。

コンテンツ共有

Miracast® でコンテンツを共有する

Windows ラップトップの場合

1. ラップトップで **Windows+K** を押すか、アクションセンターのアイコンをクリックしてから **[接続 (Connect)]** をクリックします。Windows は Miracast レシーバーをスキャンします。
2. キャスト先の Room シリーズデバイスをクリックします。PIN がデバイスの画面に表示されます。
3. ラップトップに PIN を入力し、**[接続 (Connect)]** をクリックします。
 - 通話中は自動共有ポップアップが表示され、共有が開始される前に 5 秒間のカウントダウンが表示されます。カウントダウン中は共有をキャンセルできます。
 - 通話外では、共有がすぐに開始されます。
4. 共有が開始します。

Android スマートフォンの場合

1. Samsung デバイスで **[設定 (Settings)]** メニューを開いて、**[スマートビュー (Smart View)]** または **[Dex]** を選択します。他の Android デバイスでは名前が異なることに注意してください。
2. キャスト先の Room シリーズデバイスをクリックします。PIN がデバイスの画面に表示されます。
3. Android デバイスで PIN を入力します。
4. **[接続 (Connect)]** をタップします。
 - 通話中は自動共有ポップアップが表示され、共有が開始される前に 5 秒間のカウントダウンが表示されます。カウントダウン中は共有をキャンセルできます。
 - 通話外では、共有がすぐに開始されます。
5. 共有が開始します。

Miracast について

Miracast は Wi-Fi Direct を使用してラップトップから Cisco デバイスへの直接ネットワーク接続を確立し、コンテンツをワイヤレスで共有できるようにします。通話中のときでも通話中でないときでもこの機能は動作します。通話を共有するには、まずコールを開始します。アクティブな共有中に電話をかけたり受けたりすると、Miracast セッションが切断されます。

Miracast による画面共有は、RoomOS 26 を搭載したすべてのタッチスクリーンデバイスでタッチ転送をサポートしています。つまり、デバイスのタッチスクリーンから直接、ノートパソコンの画面(例えば、コンテンツの移動など)を操作できるということです。

詳細については、Webex ヘルプセンターの[こちらの記事](#)をお読みください。

コンテンツ共有

Airplay®でコンテンツを共有

iPhone、iPad、Mac の場合

1. iPhone、iPad、または Mac 上で [コントロールセンター] を開きます。[スクリーンミラーリング (Screen Mirroring)] を選択します。
2. キャスト先の Room シリーズデバイスを選択します。パスコードがデバイスの画面に表示されます。
3. Apple デバイスでパスコードを入力し、[OK] を選択します。
4. デバイスで自動共有が有効になっていて、通話中の場合、あなたがキャンセルしない限り、通話の共有が 5 秒以内に開始されるという通知が画面に表示されます。その後、通話中の共有が開始されます。自動共有が有効になっていない場合、コンテンツは画面のプレビューでのみ表示されます。通話中にそれを共有するには、[共有 (Share)] ボタンを再度タップします。

ホームスクリーンの下部から上にスワイプするとタスクスイッチ機能が開き、別のアプリに移動できます。これで共有が終了します。

Airplay について

Cisco デバイスは AirPlay をサポートし、簡単で使い慣れた共有エクスペリエンスを提供します。iPhone、iPad、または Mac をワイヤレスに接続することで、画面の共有、コラボレーション、音声やビデオコンテンツの再生が簡単にできます。詳細については、[Webex ヘルプ センターのこちらの記事](#)をお読みください。

DRM保護されたコンテンツ

Apple FairPlay は、機密性の高いコンテンツや著作権で保護されたコンテンツを保護するため、共有をローカル環境のみに制限します。これにより、Cisco デバイス上でこのような DRM 保護されたコンテンツを安全に共有することが可能になります。保護されたコンテンツは、遠端またはリモートの会議参加者には受信されませんが、これらの参加者は音声を聞くことができますが、ビデオの代わりに、再生ボタンが取り消し線で消された灰色の画面が表示されます。

AirPlay を使用して Netflix を視聴することはサポートされていません。

通話中に画面のレイアウトを変更する

1



通話中に通話コントロールを開き、
[レイアウト (Layout)] ボタンをタ
ップします。

2



開いたメニューから優先レイアウトを
選択します。

プレゼンテーションの共有時

通話中に誰かがコンテンツを共有しているかどうにかかわらず、画面のレイアウトを変更できます。利用できるレイアウトは、デバイスと画面の数によって異なりますが、一般的なオプションは次のとおりです。

重ねて表示: プレゼンタおよび最大 6 人の参加者がコンテンツの上に重ねて表示されます。

フローティング: プレゼンターがコンテンツの上に浮かびます。

並べて表示: プレゼンタとコンテンツが画面を共有します。

フォーカス: コンテンツが画面全体を占めます。

通話中に使用できるレイアウト

利用できるレイアウトは、デバイスと画面の数によって異なりますが、一般的なオプションは次のとおりです。

グリッド: 最大 5 人の参加者のグリッドが表示されます。グリッドは単一画面のデフォルトのレイアウトです。

重ねて表示: 参加者の最大 6 つのサムネイルがアクティブな発言者の上に表示されます。

拡大表示: 発言者が画面の左上に表示され、他の参加者は下部と右側に配置されます。

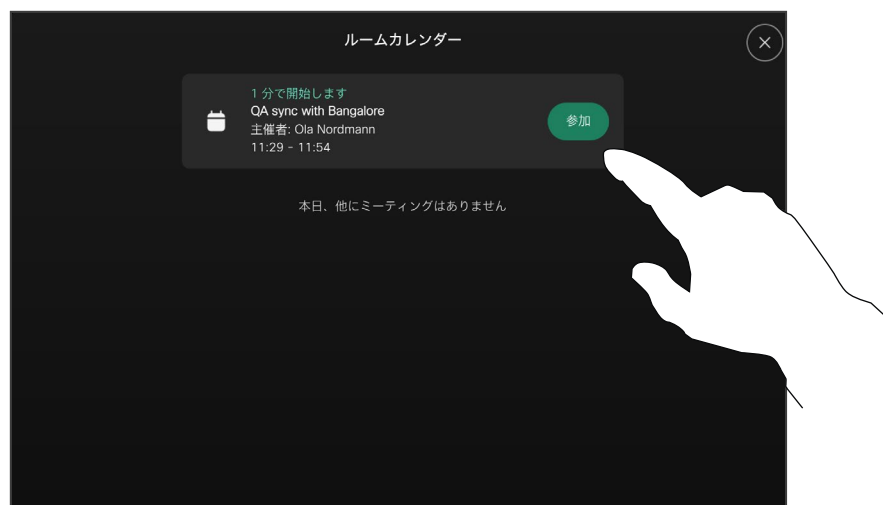
フォーカス: 発言者が画面全体を占めます。



スケジュールされたミーティング

スケジュールされたミーティング

スケジュールされたミーティングに参加する



会議の開始が近づくと、会議に参加するように求められます。[参加 (Join)] をタップします。

ミーティングへの参加

ビデオデバイスは、ビデオミーティングをスケジュールできる管理システムに接続されている場合があります。スケジュールされたミーティングは左図のように表示されます。[デバイス] 画面にスケジュールされたミーティングが表示されると、デバイスはスタンバイからウェイクアップします。

ミーティングに参加するには **参加** をタップします。

ミーティングは開始時間の 5 分前に表示されます。ミーティングがすでに開始されている場合でも、いつでもミーティングに参加できます。

スケジュールされたミーティング

Webex ミーティングに参加する



Webex をタップします。次に、受信した招待ミーティング番号のキーを入力して、[参加 (Join)] をタップします。

スケジュールされたミーティング

サードパーティのミーティングに参加する

ミーティングへの参加

デバイスは、Zoom または Microsoft Teams に接続された管理システムに接続されている可能性があります。



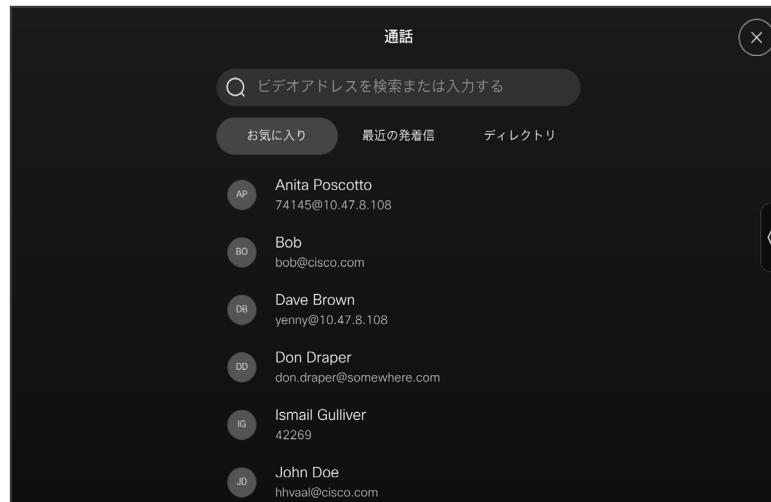
Microsoft Teams、または Zoom をタップします。
招待メールで受け取ったビデオ ID またはミーティング ID とパスワードを入力するように指示されます。
参加をタップしてミーティングに参加します。



連絡先

連絡先

お気に入り、発着信履歴、ディレクトリ



連絡先リストについて

連絡先リストを開くには、**通話** ボタンをタップします。連絡先リストは、次の3つの部分から構成されています。

お気に入り これらの連絡先はユーザーによって配置されています。これらのエントリは、頻繁にコールするか、または迅速にアクセスする必要がある場合に使用します。

ディレクトリは通常、ビデオサポートチームによってデバイスにインストールされた社内ディレクトリです。

最近 は、以前に発信、受信、または不在着信した通話の一覧です。

発着信履歴からのエントリの削除は、Web インターフェイスでのみ行うことができます。

連絡先

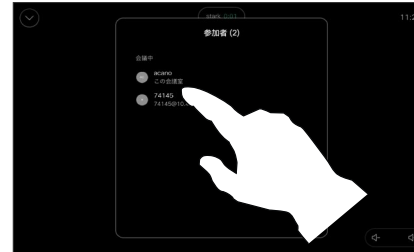
通話中にお気に入り追加する

1



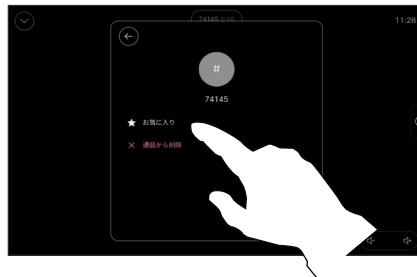
通話中に通話コントロールを開き、
[参加者 (Participants)] ボタンをタ
ップします。

2



参加者をタップして お気に入りに追
加します。

3



お気に入りをタップします。[戻る] 矢
印をタップしてから、X をタップして
通話コントロールに戻ります。

同じ方法で、[お気に入り (Favorites)] か
らユーザーを削除します。

お気に入りについて

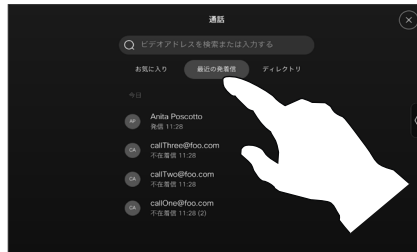
お気に入りは、頻繁に通話する、また
は簡単にアクセスしたい相手を含む
連絡先リストです。

お気に入りは、最近使用した項目
または ディレクトリリストから、ある
いは手動で入力した項目から作成で
きます。

連絡先

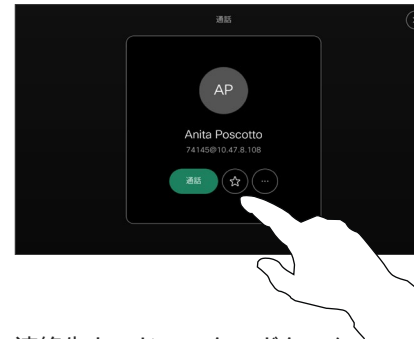
非通話時に誰かをお気に入りに追加する

1



通話中でないときは、**通話** をタップして、**連絡先** リストを開きます。「最近使用した項目」または「ディレクトリ」をタップして、お気に入りに追加する項目を検索します。追加したい人をタップしてください。

2



連絡先カードのスターボタンをタップすると、その人がすぐお気に入りとなります。または、[詳細 (More)] ボタンをタップします。

3



「その他」をタップして連絡先カードを開いた場合、ここで「お気に入り」をオンまたはオフに切り替えることもできます。[戻る] 矢印をタップしてから、X をタップして終了します。

お気に入りにからエントリを削除するには、手順を繰り返してください。

お気に入りについて

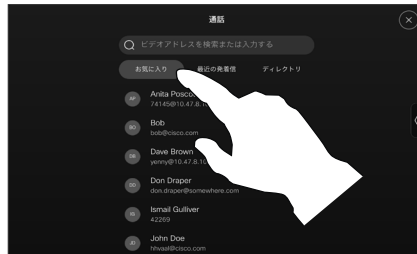
お気に入りは、頻繁に通話する、または簡単にアクセスしたい相手を含む連絡先リストです。

[お気に入り (Favorites)] は、[発着信履歴 (Recents)] または [ディレクトリ (Directory)] リストから選択するか、手動で入力できます。

連絡先

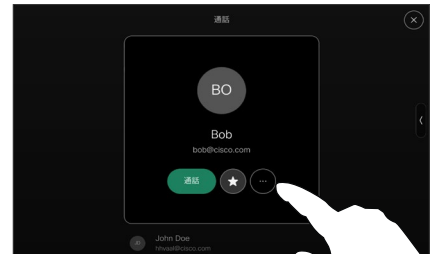
お気に入りを編集する

1



連絡先リストを開くには、**通話** をタップします。次に「お気に入り」をタップします。

2



編集する相手をタップし、連絡先カードの **[詳細]** をタップします。

3



編集する内容を選択し、変更します。
キーボードで **[保存]** をタップします。
その後、連絡先カードの **[戻る]** 矢印を
タップして終了します。

お気に入りについて

既存のお気に入りの連絡先は、いつでも更新できます。



カメラ制御

カメラ制御

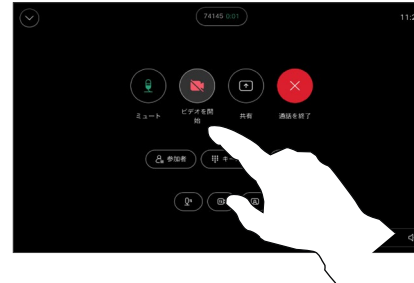
通話中にカメラをオンまたはオフにする

1



通話中に通話コントロールを開きます。

2



[ビデオの停止 (Stop Video)] ボタンをタップします。[ビデオの開始 (Start Video)] タップしてビデオの発信をオンに戻します。

ビデオオフについて

カメラを機械的にブロックするオプションが存在しないデバイスで、カメラからのビデオ送信を制御します。

カメラ制御

通話中または通話中でないときにセルフビューにアクセスして調整する

1



通話中に通話コントロールを開きます。[セルフビュー]をタップします。

2



視界の設定、移動、セルフビューを全画面に変更するオプションを選択できます。カメラのオプション画面の外をタップして終了します。

セルフビューについて

セルフビューには、自分デバイスから他の人に見えるものが表示されます。これを使用すると、他の参加者に見せるべき適切な画面が見えていることを確認できます。

通話中でも通話中でないときでも、画面の周りにセルフビューを表示、調整、移動できます。

任意のタイミングでセルフビューを確認するには、コントロールパネルを開きます。カメラが開いている/オンの場合、デバイスの画面にセルフビューが表示されます。コントローラの[カメラ (Camera)]をタップし、[セルフビュー (Selfview)]を選択します。ここでは、次の内容を確認できます。

- フルスクリーンをオン/オフに切り替える
- トグルセルフビューの表示オンとオフ。
- タッチコントローラの画面に表示される定義済みの位置のいずれかをタップして、セルフビューの位置を調整します。

カメラ制御

セルフビューを移動する

1



通話中に通話コントロールを開き、
[セルフビュー] タップします。

または、コントロールパネルを開き、
[カメラ] をタップして、[セルフ
ビュー] を選択します。

2



タッチコントローラの画面に表示され
ている定義済みの位置のいずれかをタ
ップします。

カメラのオプション画面の外をタップ
して終了します。

セルフビューについて

セルフビューには、デバイスから他の
人に見えるものが表示されます。こ
れを使用すると、他の参加者に見せ
るべき適切な画面が見えていること
を確認できます。

通話中でも通話中でないときでも、
画面の周りにセルフビューを表示、調
整、移動できます。

カメラ制御

自動カメラモードの選択

1



通話中は通話コントロールを開くか、いつでもコントロールパネルを開いてカメラ ボタンをタップします。

2



カメラモードを選択します。カメラのオプション画面の外をタップして終了します。

カメラモードについて

自動カメラモードを選択すると、ミーティング中に手動でカメラを操作することなく、デバイスとミーティングを最適に表示できます。通話中かどうかに関係なく、カメラモードを変更できます。

使用可能な自動モードは、管理者が設定した設定によって異なります。

- **グループ。** カメラは、調整してすべての人を表示します。
- **フレーム。** 参加者の周りの不要なスペースを切り取り、最大 8 フレームで、2 行に分けて、人物がより近くに同じ大きさで同じ目線に見えるよう構成します。
- **スピーカー。** カメラは、話している人物に追従します。スピーカートラッキングが動作する最大距離は 7.5 m です。
- **動的。** (Boards のみ) システムに、部屋の状況に最適なカメラモードを自動で選択させます。部屋に最大 4 人までいる場合は、フレームモードになります。5 人目が部屋に入ると、カメラモードは切り抜き概要表示に切り替わり、その後、スピーカーモードまたはグループ&スピーカーモードに切り替わります。
- **縦。** カメラは自動的に調整され、常にあなたが画面の中央に収まるようにします。
- **グループとスピーカー。** 遠隔参加者は、グループ全体の概要と、発言者のクローズアップという 2 つの画面を同時に見ることができます。

ミーティングゾーン

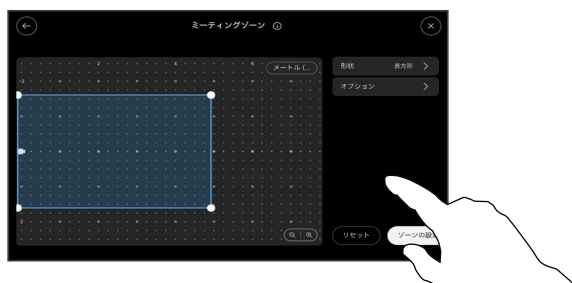
1



コントロールパネルを開き、設定をタップします。

下の [カメラ (Camera)] セクションまでスクロールして、[ミーティングゾーン (Meeting zone)] を選択します。

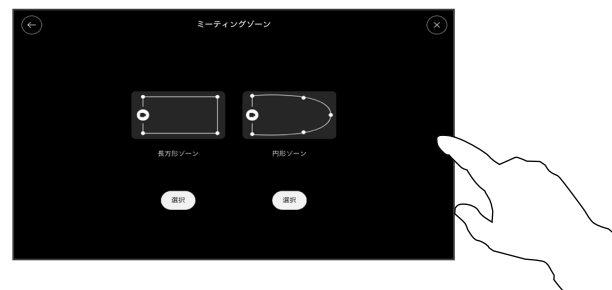
3



アンカーポイントをドラッグすることで、ゾーンの設定を変更できます。グリッド上の任意の場所をタップすると新しいアンカーポイントが追加され、ポイントを長押しすると削除されます。

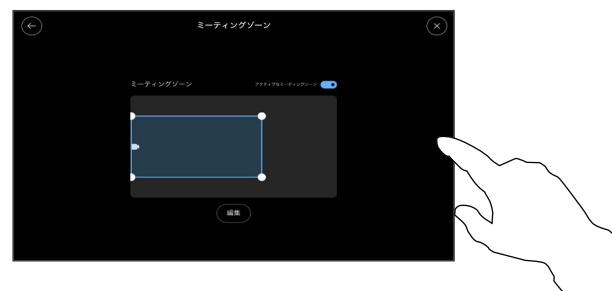
部屋内の人の位置を確認するには、[オプション (Options)] をタップし、[人を表示 (Show people)] をオンにします。人物を表す白い矢印は、部屋の中での人物の位置に応じて移動します。

2



長方形のゾーンまたは円形のゾーンの2つの標準的なミーティングゾーンからレイアウトを選択します。

4



調整中に画面上でインターフェイスを表示しない場合は、[ディスプレイに表示 (Show on display)] をオフにします。測定単位を変更するには、メートル (m) または フィート (ft) をタップします。

完了したら、[ゾーンの設定 (Set Zone)] をタップします。「会議ゾーンをアクティブにする」ボタンを切り替えて、会議ゾーンモードを「オン」または「オフ」に設定します。

ミーティングゾーンについて

ミーティングゾーン機能を使用すると、該当エリア(ミーティングゾーン)内にいる人だけをフォーカスできるため、ゾーン外からの邪魔を最小限に抑えることができます。

オープンオフィスやガラス張りの会議室のようなスペースでは、この機能はミーティング中に背景に映りこんだ人が原因の集中力散漫を最小限に抑えるのに特に便利です。定義されたミーティングゾーンの外に立っている人は、ビデオの自動フレーミングには含まれません。会議区域内にいた人だけがカウントされます。

デバイスのタッチインターフェイスを使用すると、ミーティングゾーンを簡単に設定して調整することができます。API 経由で設定することも可能です。

カメラ制御

カメラを手動で制御する

1



通話中は通話コントロールを開くか、いつでもコントロールパネルを開いてカメラ ボタンをタップします。

2



カメラ制御画面で[手動 (Manual)] を選択します。カメラ制御を使って、パン、チルト、ズームの必要な調整を行います。

カメラのオプション画面の外をタップして終了します。

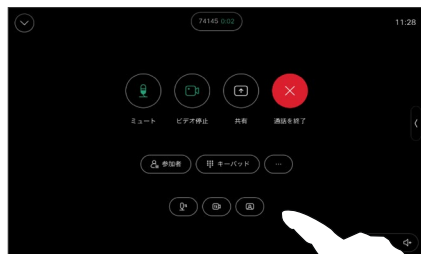
手動カメラ制御について

コールのイン/アウトでは、カメラのズーム、パン、チルトを手動で制御できます。

カメラ制御

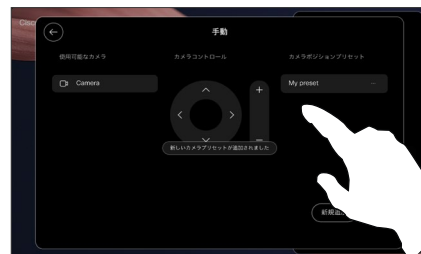
カメラ位置プリセットを追加する

1



通話中は通話コントロールを開くか、いつでもコントロールパネルを開いてカメラ ボタンをタップします。[手動 (Manual)] を選択します。

2



デバイスが複数のカメラを使用している場合は、左側からカメラを選択します。次に、コントロールを使ってパン、チルト、ズームを調整します。

3



完了したら、[新規追加] をタップします。[名前 (Name)] を付けてプリセットを [保存 (Save)] します。

4



手動カメラ制御から離れる場合は、[戻る] 矢印をタップします。プリセットが他のカメラモードと一緒に選択して表示されます。

カメラのオプション画面の外の任意の場所をタップして終了します。

カメラのプリセットについて

手動カメラ制御では、カメラのズーム、パン、チルトを制御できます。カメラを手動で調整する場合、気に入ったビューがあれば保存して再度使用できます。

つまり、定義済みのズームおよびカメラの向きを使用してカスタムビューを作成できます。たとえば、複数の参加者がいるミーティング用にはズームアウトのプリセット、小規模のミーティングにはズームインのプリセットが必要な場合があります。プリセットはカメラコントロール画面で利用でき、さまざまな種類の会議で簡単に切り替えることができます。

カメラ制御

カメラ位置プリセットを編集する

1



通話中は通話コントロールを開くか、いつでもコントロールパネルを開いてカメラボタンをタップします。[手動 (Manual)] を選択します。

2



編集対象のリストされているプリセットの横にある [その他...] ボタンをタップします。名称変更、デフォルト設定、調整、プリセット削除。

3



変更を [保存 (Save)] します。手動カメラ制御から離れる場合は、[戻る] 矢印をタップします。編集済みのプリセットが他のカメラモードと一緒に選択して表示されます。

カメラのオプション画面の外の任意の場所をタップして終了します。

カメラ制御

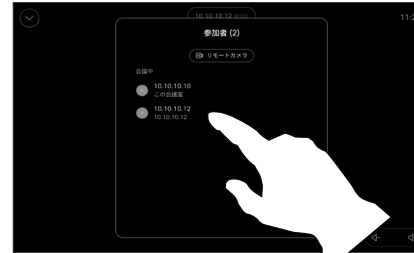
遠端カメラを制御する

1



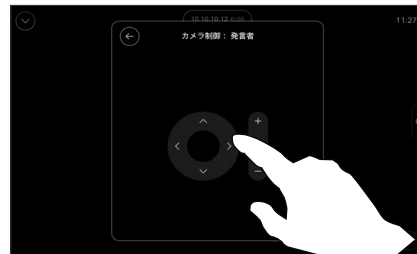
通話中に通話コントロールにアクセスし、[参加者リスト]を開きます。

2



制御対象のカメラを持つ出席者を選択します。

3



リモートカメラのチルト、パン、ズームをカメラ制御ボタンで調整します。操作が終わったら、カメラ制御以外の場所をタップします。

遠端カメラについて

ビデオコール中に、他のデバイスにリモート制御可能なカメラが 1 台以上ある場合、自分のタッチコントローラからそれらのカメラを制御できます。

遠端デバイスによって、カメラが発言者に追従するスピーカーモードを有効にしているか、または最適表示を使用している場合、カメラをリモートで制御できません。

カメラプリセットにリモートアクセスすることはできません。



設定

設定

デバイス設定および規制情報

設定へのアクセス

コントロールパネルを開くには、ハンドルをつかんで画面の右側からスワイプしてください。コントロールパネルに次の情報が表示されます。

- 音声設定
- マイクのオプション
- カメラ制御
- Standby
- デバイス設定へのアクセス

[設定] メニューを開くには、コントロールパネルを開きます。設定をタップします。メニューが開き、スクロールできます。通話中の場合、メニューが通話の上にダイアログとして開きます。

使用可能な設定は、管理者によって制限されている場合があります。



設定メニューでは、デバイス情報を確認したり、さまざまな設定を変更したりできます。

- 概要 - ビデオアドレス情報、IP および MAC アドレス、SIP プロキシ、および現在のソフトウェアのバージョンを提供する
- 問題と診断
- 着信音を選択してボリュームを設定する
- 音楽モードをオンまたはオフにする
- Miracast の有効化および無効化
- 電話サービスを選択する
- 有線またはワイヤレス (Wi-Fi) 接続から選択する
- デバイスを再起動する
- 工場出荷時リセットを実行して、工場出荷時のデフォルト設定に戻します。これを行うと、現在の登録が失われます。工場出荷時の状態へのリセットを元に戻すことはできません

このデバイスは、認証マークとコンプライアンスに関する情報を画面に電子的に表示します。表示されるマークは、関連する技術的な標準規格および動作規制に準拠しています。表示方法は以下のとおりです。

設定メニューには、Room Navigator の定格評価ラベル情報が記載されています。これらを確認するには、[設定 (Settings)] > [タッチパネルについて (About the touch panel)] > [規制 (Regulatory)] に移動します。



アメリカ本社
Cisco Systems, Inc.
San Jose, CA

アジア太平洋地域本社
Cisco Systems (USA) Pte. Ltd.
シンガポール

欧州本社
シスコシステムズインターナショナル BV アムステルダム、
オランダ

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。各オフィスの住所、電話番号、FAX 番号は Cisco のウェブサイト(www.cisco.com/go/offices)をご覧ください。

Cisco および Cisco ロゴは、Cisco またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。Cisco の商標の一覧を表示するには、次の URL にアクセスしてください: www.cisco.com/go/trademarks。記載されているサードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。「パートナー」という用語の使用は Cisco と他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1110R)